

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年10月29日

【評価実施概要】

事業所番号	1272401041		
法人名	社会福祉法人清流会		
事業所名	グループホーム清流		
所在地	千葉県市原市勝間下五反目337番4 (電話) 0436-75-6666		
評価機関名	特定非営利活動法人コミュニティケア研究所		
所在地	千葉県千葉市中央区千葉港4-4 千葉県労働者福祉センター5階		
訪問調査日	平成20年10月29日	評価確定日	平成21年2月14日

【情報提供票より】(20年10月13日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年2月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	22 人	常勤	16人, 非常勤 6人, 常勤換算 8.4人

(2) 建物概要

建物構造	軽量鉄骨 造り		
	1階建ての	1階 ~	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	20,000 円	その他の経費(月額)	光熱水費20,000 + 実費	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(300,000)円	有りの場合 償却の有無	有(期間5年で償却)	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
		35,000円 / 月 1日当たり 1,167 円		

(4) 利用者の概要(10月13日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	8 名	要介護2	4 名		
要介護3	4 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85.5 歳	最低	74 歳	最高	98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	長谷川病院(内科・外科)、磯ヶ谷病院(精神科)
---------	-------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

山林に開けた約5,000㎡の敷地に特別養護老人ホーム、デイサービス、ショートステイ、グループホーム等が併設されている。市街地までやや距離があり買い物等に不便な面もあるが、豊かな自然環境に恵まれている。単独型のグループホームでは、入居者の認知症が進んでホームでの生活に耐えられなくなっても、別法人の特養や老健施設に受け入れてもらえないケースが少なくない。しかし、ここではデイサービス、グループホーム、特養への移行ばかりでなく医療・看護の面でも併設施設間の対応が可能であり、入居者・家族から「安心して預けられる」と言われている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	当グループホームでは外部評価の意義を理解し、ホーム開設の翌年から欠かさず、今年で4回目の外部評価を実施した。昨年の外部評価では改善を求める特別な指摘はなかったが、施設合同で毎月のように行なわれる身体拘束委員会、感染症対策委員会、褥瘡(じよくそう)委員会、苦情解決委員会などの会議で、サービスの質向上に向けた討議が行なわれている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	サービス評価は施設が向上するための推力。基となる自己評価は施設の代表者だけでなく全職員が参加してまとめるのが理想だが、現実には困難が伴う。このため当ホームでは、今回も出来るだけ多くの職員の声を吸い上げながら管理職員がまとめ、併せて職員全員がこれを機に評価制度の意義を再確認するよう促している。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は入居者・家族・地域住民の代表で構成され、2ヶ月に1回開かれている。今年会議が残した大きな業績は、毎年頭を痛めてきた園内の雑草除去である。家族代表・地域代表の呼びかけで多数の協力が動員され、除去作業にあたった。今後も協力が約束された。地域包括支援センターや市の担当課、社会福祉協議会などからの出席はほとんどない。問題解決に協働して取り組む場合に備えて、行政等との日ごろの関係づくりが期待される。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族には、入居者の小遣いなど毎月の収支に関する報告を郵便で送るほか、日々の様子や体調を電話で折り返すことに伝えている。苦情解決委員会は特養、デイサービス、グループホーム合同で3ヶ月に1度開いている。管理者や職員代表に外部の第三者を加えた8人構成。家族からの意見・苦情の報告や課題への対応策を話し合っている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	敬老の日に近い公民館で行なわれる敬老会をはじめ、年2回の市主催の将棋大会に参加するなど地元との交流に努めている。ホームにも愛好者がいるので近隣村落のゲートボールに仲間入りさせよう計画も検討中。また地元中学校や町内会の廃品回収活動では、資源ごみを供出するなど地域の一員として協力している。

2. 評価結果 (詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	グループホームの案内パンフレットに「明るく穏やかな生活がおくれるような施設づくりを目指す」とうたわれている。「明るく」はいつも笑顔がたえない、「穏やかな」は安心して過ごせる、という平易だが高齢者の願いにかなった施設を目指している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	趣味活動の一つである書道教室にいつも参加している入居者が理念を大書したものを、玄関入り口と2つのユニットの食堂に掲示し、いつも皆の目に触れるようにしている。しかし、理念について話し合う機会が少ないと思われる。	○	理念は処遇の基本として、職員の脳裏にしっかり刻み込まれるべきものである。多忙のなかでも、交代時の申し送りの際やケア会議などのいろいろな機会を見つけて、理念の意味を確認し合える場面づくりが期待される。
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近くの公民館で行なわれる敬老会をはじめ、年2回の市主催の将棋大会に参加するなど地元との交流に努めている。近隣村落のゲートボールに仲間入りさせてもらう計画も検討中。また地元中学校や町内会の廃品回収活動では、資源ごみを供出するなど地域の一員として協力している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年の外部評価では改善を求める特別な指摘はなかったが、施設合同で毎月のように行なわれる身体拘束委員会、感染症対策委員会、褥瘡(じよくそう)委員会、苦情解決委員会などの会議で質向上に向けた討議が行なわれている。自己評価に関しては、管理者が中心に作成している。	○	職員の自己評価作成への参加は、職員自身の反省や気づきにもつながる。多忙な勤務時間を割いての記入作業は難しいとは思いますが、評価項目の一つ一つが何を求めているか、全員で確認できる話し合いの機会を持つことが望まれる。
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は入居者・家族・地域住民の代表で構成され、2ヶ月に1回開かれている。今年会議が残した大きな業績は、毎年頭を痛めてきた園内の雑草除去で、家族代表・地域代表の呼びかけで多数の協力者が動員され、除去作業にあたった。一方、会議への市町村関係者の参加は得られていない。		市町村関係者の参加が得られないため、会議内容を報告するのみとなっている。地域密着型サービスのよりよい運営のため、今後も参加への働きかけの継続が期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市主催の行事などには積極的に参加し、意見交換の機会としている。また生活保護の受給に関しては、担当者と定期的に話し合いをしている。その他、運営に必要な場合は随時、市町村担当者と連絡を取っている。		
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族には、毎月の収支に関する報告を郵便で送るほか、日々の様子や体調を電話で折りあるごとに伝えていく。毎週のように面会に来る家族が多いので、その時を捉えて、できるだけ面談するようにしている。家族会は各施設合同で年に1回食事つきで催し、家族同士の交流にも役立っている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情解決委員会は特別養護老人ホーム、デイサービス、グループホーム合同で3ヶ月に1度開いている。管理者や職員代表に外部の第三者を加えた8人構成で、家族からの意見・苦情の報告や対応策を話し合っている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	結婚や家庭事情に伴う異動がこの1年間に4人ほどあったが、入居者への影響はほとんどなかった。新人職員には見習い期間を儲け、ベテラン職員が指導につき、異動に伴う影響を最小限に抑えられるよう努めている。また、職員の相談等には管理者や上司が適切に対応している様子がうかがえる。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	行政や関係団体の各種研修会については全体会議等を通じて情報提供し、出来るだけ多くの職員が参加するよう働きかけている。参加した職員からの報告会も職員会議等で行なわれている。一方、内部研修では介護技術や褥瘡予防、あるいはマナー向上の学習等が行なわれている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人内事業所間の交流や見学は積極的に行なわれている。また地域で最初にできたグループホームのため、後発のホームからの問合せや見学にも対応している。グループホーム連絡会にも参加しているが、全体的に見て、管理者・現場従業者それぞれの同業他社との交流がもう少し増えると更によいと思われる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居者が穏やかに過ごせるよう、入居者2人に1人ずつの担当スタッフについて対話や見守りをしている。また家族や入居希望者の求めに応じ、日帰りの施設体験や見学日も設け、ホームの雰囲気を感じてもらっている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>床のモップがけ、食器拭きや洗濯物干しを手伝う人がいて、それぞれが「元気のもと」になっている。また貼り絵や押し花、カラオケ、散歩などを共にしながら、入居者と職員の関係づくりが行なわれている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居者一人ひとりの思いや希望は、毎日の生活の中で把握され、その人らしい生活ができるよう、出来る限り希望に沿った支援がされている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>居室担当職員がケアプランの作成にかかわり、カンファレンスを開いて活発に意見交換し、共有された介護計画を作成している。家族や関係者の希望も取り入れられている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>提携先の医師が特別養護老人ホームに来た際、受診したり、精神科の医師や看護師もホームに往診に来ているので、状況によっては短期間で見直しもされている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	特別養護老人ホーム、ショートステイ等とグループホームが同じ場所にあるので、車両や職員など柔軟な対応が可能である。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者個別のかかりつけ医への受診を支援している。また、提携の医療機関とは夜間の対応も含め、協力を得る体制になっている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族、協力医、隣接の特別養護老人ホーム、と密接に協議しながら最期のあり方につき対応を取り決めている。急変に備えては特別養護老人ホームから応援が得られるので、家族の信頼は厚い。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報を保護し管理することの重要性を十分認識して、サービスの提供に当たっている。又、親しい中でも尊厳を損ねないよう、言葉かけや対応に注意している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は、入居者の生活パターンをほぼ掴んでいるので、無理やり決まり事や都合を強要することはない。見守りに徹し、表情や希望を大切に、できるだけ期待に沿えるよう支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	特別養護老人ホームの厨房から搬入された食材の下ごしらえを職員と共に行ったり、味付けをして、同じ食事を取りながら楽しいひと時を過ごしている。家庭菜園から取り立ての野菜を使ったり、リクエストメニューを採り入れることもある。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望があれば毎日でも入浴は可能である。又、隣接の特別養護老人ホームの大浴場を使って気分転換を図る事もできる。入浴拒否があれば、原因を調べ時間や曜日を変えたり、清拭や足浴にするなど臨機応変に対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は入居者の得意な分野(書道、生け花、皿拭き、後片付け、掃除など)を掌握しており、出番を作って負担にならないよう、持てる力を生かした活動を支援している。音楽療法を毎月2回開催し、喫茶、理美容、化粧ボランティアが入るなど、盛り沢山の楽しい行事が行われている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームの中だけで暮らす閉塞感の弊害を認識し、自然豊かな周辺の散歩や外食、買物など戸外に出る機会を設けている。車椅子の入居者も可能な限り外出に参加できるよう配慮している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関にチャイムを設置して、日中の無断外出を察知し、職員が連携プレーで後からついていくなど鍵をかけないケアに取り組んでいる。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署指導の下、隣接の特別養護老人ホームと共同で、地震や火災に伴う避難や初期消火の訓練が行われている。非常通報網や職員の役割分担が定められていて、隣接の特別養護老人ホームに応援を求めることができる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量や栄養バランスは、特別養護老人ホームの厨房で管理している。食事量や水分摂取量はチェック表で管理している。又、体調の変化に応じて刻み食やとろみ食が供される。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	時計、カレンダー、季節を感じさせる生け花や行事の写真、習字や作品などが飾られ、家庭的な雰囲気である。リビングのソファで寛ぐこともできる。明るく広々とした共用空間で、不快な音や光は感じられない。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	安全で衛生的であることをモットーに、家族の意見も入れて、使い慣れた馴染みの品や思い出の作品が飾られ、安心して過ごせる雰囲気である。		